

# 大恐慌と二人の助言者

前経営学部特任教授  
嶋 中 雄 二



3年半という短い期間だったが、白鷗大学経営学部で、専門特講（景気循環入門）を中心に、ゼミを含む4つの授業を担当してきた。景気循環論は本来、経済学に属する分野なので、経営学部の学生に興味を持ってもらうには、ちょっとした工夫が必要である。

私は、授業の中で一冊の本を紹介した。ラーズ・トゥベデー著『信用恐慌の謎』赤羽隆夫訳、ダイヤモンド社、1998年である。この本の著者トゥベデーは長らく「ヘッジファンド」の運用という仕事に携わる中で、「景気循環は職業上本当によく理解しなければならないダイナミックな経済現象の一つであることを悟った」と、日本語版への序文の冒頭で書いている。

この本の特徴は、登場する経済学者やエコノミストの人物像が生き生きと描かれていて、全く読み飽きない点にある。特に、1929年10月の株価崩落に始まる米国大恐慌を的確に予測した市場エコノミストのロジャー・バブソンと、逆に米国経済が「永遠の繁栄」にあるとの楽観論を唱えたエール大学教授のアーヴィング・フィッシャーの物語

は興味深い。

この二人は若い頃、同時期にコロラドの結核療養所で療養生活を送った経験がある。しかも二人とも、結核治療に役立つ仕組みを発明した。フィッシャーは小型酸素吸入 TENT を発明し、ニューヨーク医師会から報奨金を送られた。バブソンの発明は、電熱式の外套とタイピスト用の小型ゴム製ハンマーだった。

大恐慌では明暗を分けた二人だが、共に独創的な性格を持ち、景気循環論と金融部門の役割を重視し、あらゆる種類の問題に関して人々に助言をしたい気持ちで溢れていた。

今日、フィッシャーの名は「貨幣数量説」の考案者として有名だが、大恐慌を予見したバブソンの「景気面積説」は知られていない。だが、バブソンにも魅かれる私は、直近の世界経済の局面でも、彼の考案したチャートを毎日再現して、異変がないか観察している。

## つぶやき

春風にのって、新しい門出を祝う季節がやってきました。本学卒業生で阪神タイガースの大山悠輔さん(2017年卒)は、挑戦の軌跡を綴った『常に前へ』を出版しました。女子バスケットボール日本代表の林咲希さん(2017年卒)も『努力は人を育てる』を刊行しています。先輩たちの物語は、新しい挑戦を始める皆さんの背中をそっと押してくれるはず。ぜひ、図書館で手に取ってみてください。

2026(令和8年)4月1日 発行  
編集 図書館だより編集委員会  
発行 白鷗大学総合図書館  
〒323-8586 栃木県小山市駅東通り2-2-2  
ホームページ <https://library.hakuoh.jp>  
印刷 第一印刷株式会社

## 音楽の文献および教科書の今後のIT化と図書館の関係性について

名誉教授  
今 田 政 成



求められ、情報の過剰供給による混乱も招きやすくなります。

ここに紹介する「音楽をもっと好きになる本」全4巻は今までにない視点で音楽を語り、歌や演奏、楽器、音楽家、名曲とテーマ別に分かれていて知りたいことを適度な文章量でまとめてあります。QRコードから豊富な音源が聴け、アプリダウンロードやCDが不要であります。

図書館は単なる書籍の保管場所から、デジタルリソースのハブへと変化し、紙媒体とデジタル資料の共存による利便性の向上を図り、学習者のニーズに応じたカスタマイズされた教材の提供が不可欠になってきます。

音楽教育におけるIT化は、学習者に新たな可能性を提供する一方で、多くの課題を伴います。図書館との連携を深めながら、デジタルとアナログのバランスを保ち、持続可能な教育環境の構築が求められます。

近年、IT技術の進化は教育分野にも大きな影響を与えており、特に音楽教育においてもデジタル化の波が押し寄せています。音楽の教科書・文献のIT化の現状と今後の展望、そして図書館との連携について考えていきます。

音楽教育におけるIT化の現状ではタブレット端末やPCを利用した電子教科書が増加し、マルチメディアコンテンツは音源、動画、インタラクティブな練習問題が組み込まれ、効果的な学習が可能になっています。クラウドベースの資料管理が進み、学生がどこでもアクセス可能な環境の構築ができつつあり、情報の送り手や受け手の関係が固定的ではなく、その場で互いにやり取りでき演奏支援ツールの活用や即時フィードバックなどの活用ができます。書物や楽譜などの紙資源の節約と持続可能な教育への貢献もあります。

デジタルコンテンツは容易に複製・共有できるため著作権管理の複雑化が問題になり著作権侵害のリスクが増加し、国や地域によって異なる著作権法への対応が必要になってきます。デジタルデバインドの問題としてインターネット環境やデバイスの有無による学習機会の格差拡大があります。

膨大な情報の中で重要な知識を選別する能力が



## 武者小路実篤に想う

名誉教授

金井 正



私は、昭和30年4月29日、農家の長男としてこの世に生を受けた。当時近所の人たちは全て農家であり、私も将来農業を仕事にするものと思っていた。農家であるが故であろうか、家には本というものが少なく、子どもが喜ぶような本はほとんど無かった。そんな環境であったが、小学校5年の時に読書大好き先生が担任となった。この先生の影響は大きく、6年生も引き続き担任だったため、学校図書館の多くの本を読むことが必要条件となり、その感想文を毎月のように提出することが十分条件となった。2年間毎月数冊の本を読み、十数枚の感想文を書いた。先生とは言えば、一つ一つの感想文にコメントを書いて返却してくれた。コメントを読むのは楽しみであった。思い出に残るコメントに「竹という植物は稲の仲間ですよ。」というのが有り、改めて植物の不思議を考える機会を頂いた。

中学生になって、読書が習慣となり、図書室に通った。気に入った本が有れば本屋に向いて購

入した。多くの本を、ジャンルを問わず読んできたが、感動を与えてくれ、今でも思い出す作家に、武者小路実篤がいる。実篤の小説にハマった。武者小路実篤はどちらかというと純粋な理想主義的小説を多く書いている。特に10代のときの私は、「友情」、「愛と死」、「幸福な家族」等に多くの感銘を受けた。人生はこのように生きるべきであり、またそうしたいと思わせてくれた。彼の友として、同じ「白樺派」には、志賀直哉がいるが、作風として実篤の方が好きである。また、実篤は人生の後半に、色紙に多くの絵を描いている。その絵には短い言葉が添えられている。その中で「仲良きことは美しき哉」、「龍となれ雲自ずと来る」等は私の人生訓となっている。

武者小路実篤は1976年（昭和51年）4月9日満90歳で生涯を終えている。理想主義者は長生きをするというのは本当であろうか。だとすれば私は、長生きをしそうである。



本学図書館所蔵

## 図書館で資格試験を目指している皆さんへ

前法学部教授

坂本 恵三

これまでの研究生活の中で、私が、図書館を最も利用したのは、博士論文を書いていた当時である。

1982年秋、オーストリア政府奨学生としてウィーン大学に留学した私は、縁あって翌年ドイツ、バイエルン州のヴェルツブルク大学法学部助手に採用され、同大学で博士論文を書く機会を頂いた。留学生活は楽しかったが、ドイツで学位を取得するのは、生やさしいことではなかった。

指導教授であるハーブシャイド先生から私が論文のテーマとして頂いたのは、扶養料請求や損害賠償請求事件で判決が確定した後に、扶養料や損害賠償請求額を算定した基礎に変更が生じた場合の問題解決のための日・独の法的手段を比較法的に検討するというものであった。

非常に興味深いテーマだが、対象となる事件についての手続が日本とドイツでは共通しない場面があり、また、ドイツ民訴法を参考にして日本に導入された確定判決の変更を求める訴えの制度も、未だ存在せず、日・独の比較法的研究としても難しいテーマであった。もっとも日・独の制度の違いが興味深かったせいか、完成した博士論文は、ドイツでも一応の評価を得て、ケルンにあるカール・ハイマンス社から出版され、レーゲンスブルク大学のゴットバルト教授が、この本の書評を書いて下さった。

ともかく、何とか学位論文を仕上げ一安心できたのであるが、これは本当に一安心でしかなかった。ヴェルツブルク大学の学位規程では、学位取得のための口述試験の受験要件として学位論文の提出の他に、当時ドイツでも既に稀になっていた法制史の史料読解の試験が定められており、これが、非常に高いハードルであった。規程では、くじを引いてテーマを選び、2週間以内に30頁から40頁のペーパーを提出することが義務づけ

られていた。私が引き当てたテーマは、明治憲法にも影響を与えたとされる1850年1月31日のプロイセン憲法のうち4条乃至9条であった。史料読解の準備のための講義も開講されていたが、怠け者の私は、一度も出席したことがなく、史料読解のお作法については付け焼き刃で対処せざるを得ず、まさに冷汗ものであった。テーマが現代の基本権にも通じる内容であったことと、時期がクリスマス休暇の直前で、休暇期間中は図書館が利用できないという理由で提出期限を1週間延長してもらえたおかげで、何とか史料読解もパスし、最終の口述試験にも無事合格することができた。

外国で学位を取得することについても、史料読解を要件とする学位制度についても、「何で、俺がこんなことしなきゃいけないんだよ。」と、よくぼやいていたことを覚えている。そんなとき同僚のドイツ人の助手たちは決まって、「Weil Du es willst! (お前がそうしたいからだろう)」と言って笑っていた。まさにその通りで、私も笑うしかなかった。

学位取得に限らず、試験を目指す勉強は、楽しいことよりも苦しいことの方が圧倒的に多い。膨大な試験範囲と試験に対する不安から、愚痴をこぼしたくなる気持ちは良く理解できるし、また、愚痴をこぼすことがストレスの発散になることも、自分の経験を通じて知っている。しかしそんなときは初心に立ち返り、なぜそのような試験を目指しているのかを自問して頂きたい。答えは明かである。「Weil Du es willst!」。

白鷗大学図書館を利用して資格試験を目指す学生諸君が、首尾よく所期の目的を達成し、資格試験の勉強に疲れてぼやいている後輩達に、この言葉を伝えられる日が来ることを、心から願っている。